

で以上に現場を多忙にしている状況です。新指導要領では、「総則」の道德教育の目標に「わが国と郷土を愛し…」と明記され、小学校音楽では「『君が代』を歌えるように指導すること」を義務付けています。実際、今年の小学校低学年の国語教科書に「読み聞かせ教材」として戦前皇国史観を植えつるのに利用された神話「いなばのシロウサギ」が登場するなど、道德教育・愛国心教育が強化されています。私たち教育労働者に対しても指導が強制されてくることは明らかではないでしょうか。

八重山の公民教科書採択問題はこの「愛国心の涵養」を徹底するためであり、与那国への自衛隊配備の動きと根をひとつにするものだと思います。

また、予断を許さないのが辺野古新基地建設問題など平和の問題です。日米安保を重要視する野田政権は、この間の「日米合意」の履行のため「環境影響評価書」を提出し、美しい辺野古の海の埋め立てを強行する腹つもりです。私たちは「教え子を再び戦場へ送らない」ために、憲法改悪を許さないために、取り組みを強化しなければ、同じ過ちを繰り返すことになってしまいます。さらには、厳しくなる一方の学校現場の状況を改善し働き甲斐のある職場づくり、暮らしやすい社会を創るため団結を強化していきましょう。

## 沖縄県の教職員の仲間の皆さん！ 2012「新春の集い」連帯の メッセージ



沖縄組那覇支部  
執行委員長 宮城 達

2012年新年、おめでとうございます。

3. 11大震災と原発事故はこの国の政治・社会のあり方を大本から変えなければ未来はないことを提起しました。自公政権から連なる民主党連立政権の実行しつつある政策すら、大企業の姿勢とともに国民の生命、安全、暮らしを崩壊に導く元凶になりつつあります。さらに八重山教科書問題は普天間基地、教科書問題等でのオール沖縄に分断の楔を打ち込む大がかりな謀略的攻撃であることも明らかになりました。

今年こそ、「構造改革NOー!」「教育改革ストップ!」の二つの闘いとともに、県民と固く連帯し、この国のあり方を根本から変革していく、論議と闘いの元年にしていこうではありませんか!

沖縄の全教職員の仲間の健康の祈願とともに、那覇支部よりの固い連帯を送ります。

強固な「絆」で  
力強く前進を!

沖縄組宮古支部執行委員長  
池村 博和

新年、明けまして、おめでとうございます。2012年が、組合員一人ひとりにとって、実り多く充実した一年になる事を、心よりお祈り致します。

さて、昨年度のトップニュースにあげられる東日本大震災は、私達に多くの課題を突き付け、この国の歪みや矛盾を一挙にさらけ出しました。何も解決できない、前に進むこ

とすらできない無用の長物と化した政治。脆弱な危機管理能力が露呈し、公開された情報の信憑性は失われ、国民を不安に陥れるだけで未だに復興の糸口すら見いだせていないのが現状です。重要課題はすべて先送りし、正面切って向き合おうとしない体質。此の期に及んで何を言うかであり、この国の行く末を憂えずにはいられません。

しかし、そのような社会的状況の中で光明があるとすれば、人と人の繋がり的重要性が再確認されたことではないでしょうか。被災者を励まし、生きる勇気、希望を与えてくれたのは、多くのボランティアであり、コミュニティー（地域社会・共同体）の強さ、支えでした。去年の世相を表す漢字に「絆」が選出された理由は、このことが大きく反映されていると思います。

この、人と人の繋がりつまり「絆」は、去年一年間だけの漢字ではなく、私達の未来に向けてのキーワードになるような気がします。戦後の高度経済成長による<sup>沖</sup>の繁栄の中で、物質的欲求や利便性を追究し手に入れた多くのものと引き替えに、失った大事なものが「絆」でした。そのため、破綻しかけている国や地方、その他あらゆる組織の再生には、人と人の「絆」を取り戻すことが大前提になると思います。

ところで、宮古島市では、有ろう事か、学校統廃合により地域コミュニティーを壊そうとしています。宮古島市の学校は、コミュニティースクールとしての機能を十分に果たしているため、統廃合に係る地域は全て反対です。沖縄組宮古支部は、地域と連帯しながら、学校統廃合の白紙撤回まで頑張りたいと思います。

最後に、沖縄県教職員組合が、2012年に向けて、強固な「絆」で結ばれた組合員の集合体として、力強く前進することを祈念致します。本部、各支部、共に手を携えて頑張ってください。

あけましておめでとうございます。

私たちは、組合員のみなさんとともにあります。

本部書記局一同



### 組合員限定の子育て介護 支援プログラムを 開始します。

子育て、介護真っ最中の方、  
又、今後予定されている方、ぜ  
びご利用をお考えください。

急に預けなくてはならず困  
ったとき、いつでもお助けしま  
す。NPO とあなたを組合が  
つなぎます。

1時間単位でも使えます。し  
かも、半額は組合が援助しま  
す。こまったときは、ぜひ組合  
へ。



## 「会計検査院調査にもとづく賃金返還」問題

### 納得できない欠勤届、給与返金

山本委員長の挨拶にもありますが、会計検査院の調査によって指摘された教職員の「不適切勤務」に対し、欠勤届を出すようにという指導が教育委員会からなされています。県は、今後全校に広げると言っています。欠勤届を出してしまえば、当然給与の返還要求が来ます。

しかし、校長から職専免を正式にもらって行っているにもかかわらず仕事をしていないので給与を返さないというのは、どうも納得できるものではありません。4年さかのぼるので、金額も数千円から数万円になる人もいます。

金額のこともありますが、何よりこちらには何の落ち度もないにもかかわらずまるで不正を行った者から罰金を取るかのように返金命令がくる、行政や管理者のミスを下へ押しつける姿勢とも感じられます。ここが問題ではないでしょうか。

### では、なにができるのか

日教組の弁護団からのアドバイスです。まず、納得できない、不服であるという意思表示をしっかりとっておくこと。もしも、万が一集団訴訟ということになった場合、大きな証拠になります。

異議申立書の見本が各支部にありますので、ご利用ください。

行政的な法規に則った対応もちゃんとあります。公務員の労働条件、処分などに関する不服申し立ては、人事委員会へ行うことになります。今回の件は勤務に関することになりますので「措置要求書」を出すことになります。これも、支部の様式がおいてありますのでご利用ください。

提出は、学校長を通して、直接送付でもかまいませんが必ずコピーを取っておきましょう。支部へもコピーを提出してもらえば交渉の助けになります。

## 幼稚園の仲間が 困っています。

内閣府による「子ども家庭省」(仮)の設置により幼稚園が将来的に教育委員会から切り離されることになりそうです。

「幼保一体化」の流れの中、那覇市では「こども未来部」、名護市で「こども家庭部」、沖縄市では「こどものまち推進部」と国の先取りのような部局再編が行われています。この動きは、今後全県に広がることが予想されます。

何が問題かという、幼稚園の先生方の教育公務員としての地位や身分が不安定になるおそれがあるのです。それは同時に幼稚園教育の危機でもあります。特に沖縄県では、幼稚園教育が他県と違う形で独自に発展して来た歴史があります。幼稚園の「準義務教育化、無償化」を目指し、私たちは、当局としっかり話し合いを重ねていく必要があります。